

（午前9時30分 開議）

○議長（小林 弘君）皆さま、おはようございます。

ただ今の出席議員数は17人で、定足数に達しております。

○議長（小林 弘君）これより本日の会議を開きます。

この際、報告いたします。

市長から令和4年6月17日付、橋総第107号をもって追加議案1件が提出されました。議案はお手元に配付いたしております。これを今会期中にご審議願うことといたします。

以上で報告を終わります。

#### 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（小林 弘君）これより日程に入り、日程第1 会議録署名議員の指名 を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において、5番 板橋君、8番 高本君の2人を指名いたします。

#### 日程第2 一般質問

○議長（小林 弘君）日程第2 一般質問を行います。今回の一般質問の通告者は15人あります。

質問は会議規則第62条の規定により、別紙の順序により発言を許します。

順番1、6番 辻本君。

〔6番（辻本 勉君）登壇〕

○6番（辻本 勉君）皆さん、おはようございます。久々に1番バッターになりまして、頑張らなあかんなどっておるんですけども、なかなか朝一番というのはテンションが上が

らないので、徐々に上げていきたいなど、このように思っていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議長のお許しを頂きましたので、一般質問を行います。

少し前段で、昨日ですけども、伊都地方の少年メッセージというのがありまして、3年ぶりに実施されまして、子どもたち、伊都地方の中学生の生の声を聞くことができました。伊都地方12中学校から2名ずつの代表者が来て発表があったんですけども、コロナウイルスの感染症のこととかウクライナのこと、家族のこと、学校のこと、いろんな話がありまして、感動して帰ってまいりました。

今度、時期的にはちょっと若干ずれるんですけども、FMはしもとでその子どもら、5人の方が優秀賞と奨励賞という形で入選されたので、5人の方の発表がまたFMはしもとで流されます。議員の皆さんもぜひとも聞いていただいて、今の中学生、このコロナ禍の中で大変ですけども、一生懸命に頑張っていて、地域の活性化のためにいろいろ考えているんやなということを酌み取っていただいたらありがたいかなと、このように思っています。どうかよろしくお願いいたします。

それでは、一つ目から行きたいと思います。野球場を中心とした総合スポーツ施設について。

本年1月23日なんですけども、サンケイスポーツに載っておったんですが、米大リーグ、パイレーツの筒香嘉智内野手が総合スポーツ施設完成前報告会というのを行いました。あやの台北部、南海電鉄株式会社所有地に自費で約2億円の総工事費を負担し、既に室内練習場が完成いたしておりますし、あと、グラ

ウンド関係についての造成もほぼ終わりそうな状況です。両翼100m、内外野が天然芝の球場とサブグラウンド、小体育館を今年中に完成しようとするものであります。

ずっと以前といいますか、運動公園の県立体育館ができるときに、橋本市運動公園に県立の体育館と野球場の建設計画がありまして、かなり期待したわけでありましてけれども、野球場建設だけが頓挫いたしました。それ以降、野球関係者の方をはじめとして、いろんな方から野球場建設の要望がありました。

この議会においても何人かの議員が一般質問で取り上げられて要望いたしました。少子化と野球人口の大幅減と本市の財政状況を考え合わせて、平木市長は市として専用の野球場は建設しないとのことであります。私もそのことについては賛同いたしております。

そんな中で、筒香選手から標記の話が出てまいりました。本市にとっては願ってもない、大変ありがたい話ではないでしょうか。野球関係者のみならず、市民のみんなが喜んでおるところであります。

紀ノ光台が結構、開発が進んでまいりました。そして、あやの台北部の住宅開発、南海の土地を活用した商業施設の充実、あやの台北部の企業誘致と、本市の北東部のあやの台周辺が一大拠点という形で、野球場ができますと、さらに発展が期待できるのではないのでしょうか。そういう意味でも、大変大事な野球場になろうかと思っています。

建設等についてということで、これは行政は最初から関わっていないということなんです。一民間企業に行政が支援していくというのは大変難しい部分があるんですけども、完成後、この球場をどう利用していくのかということについては、大変大きなメリットがあるのかなと、行政が関わっても大きなメリットがあるのではないかなと考えています。

PRとか利用等について協議をして、そのことについて手法を考えていけばいいのかなと思っていますので、筒香選手、現在まだアメリカでおりますので、なかなか交渉といいますか、話合いができない状況なんです。現時点での市当局の考え方を尋ねたいと思います。

続いて二点目、平木市政3期目の重点施策についてということで、これについては選挙が終わった後にもうこの一般質問を考えておりました。やろうやろうと思うとったんですが、先日、「広報はしもと」6月号を見ますと、ばあっとかなり詳しく載っておったので、ああ難儀やなと思ったんですけども、一応やりたいなと思って出させていただきました。

まずは、大変遅くなったんですけども、平木市長、3期目の当選おめでとうございます。本年3月20日投開票の橋本市長選挙において3期目を果たされました。1万5,075人の信任を得ましたが、反面、1万2,779人の反対、批判票もありました。

2期8年の多くの実績が市民に伝わらなかったのかな、若干。財政再建という大きなことをやっていただいたので、そのことは目立っていただけだったので、それ以外の部分についてはなかなか市民の方に理解されていなかったのではないかなと。それがやはり大きな反対票のあった一つの要因でもあるのかなと、このように考えています。

私も選挙に関わっておりまして、平木市長は何をしたのかという、何もしてないやないかというような意見がたくさんありました。その都度、私は自分で作った実績報告を持っておりまして、こんなこともやってくれましたよ、こんなこともやってくれましたよという話をすれば、ああ、そうか、こんなことやってくれたんやなという市民の声がたくさんありましたので、ちょっと宣伝不足かな

という気持ちは受けました。

今回、「広報はしもと」6月号に特集として今後の市政運営について記載されていますが、10年先、20年先を見据えた六つのまちづくりプランなんですが、これは選挙期間中に公表された8年間の実績、平木市政の実績と3期目に向けての政策とほぼ同じものであります。

内容については大変すばらしい、今回また、選挙期間中はかなり読んだんですが、今回また「広報はしもと」を熟読いたしまして、大変すばらしい内容でありますし、一貫性とか継続性もあり、ぜひとも実現したいものばかりでありますし、議員としても、このことが橋本市民にとってよいことなので、ぜひとも協力していきたい、協力を惜しまない覚悟であります。

しかしながら、反対票を投じた1万3,000人弱の市民の方をはじめ、平木市政に不満を持っている市民はどうなのでしょう。これだけで満足をするものなのでしょう。コロナ禍の中で本市の閉塞感は否めません。現状以上に何か変わりたい、変わってほしいという市民の方が多くおられますし、平木市政3期目への期待はそこにあるのではないかと私は考えています。

「広報はしもと」に記載している六つの施策中、これはという重点施策とか本市の将来像等、市長の思いといいますか夢、政治は私はロマンだと思っておりますので、そういう夢を市長自らの声で市民に語っていただきたいと思ひまして、以上の質問をいたしました。的確なご答弁をよろしく願いいたします。

○議長（小林 弘君）6番 辻本君の質問項目1、野球場を中心とした総合スポーツ施策に対する答弁を求めます。

教育部長。

〔教育部長（堀畑明秀君）登壇〕

○教育部長（堀畑明秀君）おはようございま

す。

野球場を中心とした総合スポーツ施設についてお答えします。

本年1月に、あやの台北部の南海電鉄株式会社所有地内に筒香氏が建設を進めていた野球用の室内練習場の完成報告会が開かれ、その際に筒香嘉智選手から、今後、球場や内野フィールド、小体育館を自費で整備していく方針が発表されました。この報道を受け、所管課には一般の方から場所の問合せ等の電話が多くあり、関心の高さがうかがえたところです。

筒香選手には平成31年1月に橋本市スポーツ推進アドバイザーに就任していただきました。市ではスポーツ推進事業を実施し、子どもの体力や運動能力の向上、スポーツに親しむことができる機会や環境づくりを行っており、筒香選手ご本人にも参画していただいているところです。

メジャーリーグの世界で活躍する筒香選手の、未来の子どもたちのために投資し、自身の経験を地元還元していくという意思を大切に、筒香氏に対しては市としてできる範囲での支援を行っていきたく考えですが、具体的な内容は、完成後の施設の利用形態や公益性等も勘案しながら決定したいと考えています。

○議長（小林 弘君）6番 辻本君、再質問ありますか。

6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）ありがとうございます。

壇上でも言ったんですけども、現在現役で、まだアメリカでおりますし、なかなか話ができないとか、ところがあるんですけども、現時点で、市民の方が思っているのは、市は全然かんでないん違うんかいと。市民から長い間、野球場建設というのは要望として上がってきておるんで、それからいくと大変あり

がたいことなのに、市って何しとるんですか、市はこの球場についてどなん思うとるんですか、何か支援してへんのですかという、そういう話が結構出てきているんです。

特に、これ南海電鉄と橋本市にとっては大きな問題だなと僕は思っておるんです。絶好のチャンスといいますか、人を寄せる絶好のチャンスだと思うんです。

私は一企業なのであまり、議員という立場ではあれなので、先日も南海電鉄の本社のほうへ行ってまいりました。私、出身でするので行ってまいりまして、専務と話をいたしまして、南海にとってもかなりメリットがあると。今後、球場ができたときにはそれなりにやっぱり応援してもらわないと困るよと、そんな話をしてきたんですけども、ほな橋本市は何をするんですかと。球場に対して何をするんですかという話もちょっと言われまして、南海電鉄と橋本市と筒香スポーツアカデミーと一緒に、あの球場をうまくできればいいのかなという話もちょっとしていたんです。

そんなことで、特にまだ、資金面の援助とかというのはなかなか難しい部分があるかと思うんですけども、本市にとってメリットがあるような形は何やということをやっぱりきちっと出しておかんと、筒香選手が帰ってきて話をする中で、なかなか、来たからそうしようかということもできませんので、その辺はどうなんでしょう、今後、PR等についてとか使用方法について、どないしていったらいいのかなということは考えておられるんですか。

○議長（小林 弘君）教育部長。

○教育部長（堀畑明秀君）ただ今のおただしですけれども、今後、球場整備等、また、アカデミーができたときに市としてどのような支援を行っていくのかというふうなところなんですけれども、本市におきましても、野球

場というものがありませんでしたので、それが本市の中にできるということは大変喜ばしいことかなと。

そして、スポーツアカデミーを通じて、また、本市の子どもたちの育成、スポーツ能力の向上等に取り組んでいただけるといのは大変ありがたいことかなというふうに考えておりますので、本市といたしましても、PRやできる範囲のいろんな形での支援を今後考えていきたいというふうに考えています。

○議長（小林 弘君）6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）ちょっと確認したら、正式な、公式の試合というのは、高校野球レベルの試合というのは、何か貴志川の球場を利用しているのかな、一番近くで言えば、紀三井寺とありますけども、貴志川の球場を使っているの、そこからこっちというのはなかなか正式な野球場がないということで、大変みんな苦勞はしておるんですけども、そんなことも考えながら、ちゃんとしたものをやっぱりやって、同じやるのであれば、ちゃんとしたものやってもらえればいろんな活用ができるので、その辺についても考えていかんといかんのちゃうかなと思うんですけども。

取りあえずは一度ゆっくりと、筒香選手のほうと話をしながら、支援をきちっと、できる支援を出していただいて、これを市民の方に周知していくというのか、外へも、ああいういいものができれば外へもどどんPRはせんといかんと思うんですけども、まずは市民の方にやはりきちっと押さえて、和歌山県下の、伊都、紀の川筋の皆さんにやっぱり知っていただいて、まずは来ていただいて利用していく。

ほんでまた大阪のほうからも、河内長野市、向こうのほうからも来ていただいて利用していただくという、大変有意義に活用できると思うので、その辺を十分、筒香選手と、こっ

ちでお兄さんがおられますので、その辺と、帰ってくる前にでも十分打合せしながら、今のところあの球場については、賃貸でいくのか土地を購入するという話にはまだ結論は出ていないようなんですけども、何にせよ完成後はこなんしていくんやと、こういうふうに市としてもこういうふうにしてほしいんやという話をやっぱりつくつといて、それで帰ってこられたら即その話、帰ってこられたら即もう筒香選手も南海電鉄との話合いに入ると思うので、そのときにはやっぱし、市としても今後こういうふうにしてよという話是可以するような体制づくりはやっぱりしておいてほしいなと思うんですけども、その辺についてはどうですか。

○議長（小林 弘君）教育部長。

○教育部長（堀畑明秀君）ただ今、議員おただしのとおり、まずはそういうふうなきちんとした協議ができる体制づくりを、市としましてもつくっていききたいというふうに考えています。よろしく願いいたします。

○議長（小林 弘君）次に、質問項目2、平木市政3期目の重点施策に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）おはようございます。辻本議員の質問に答える前に、昨日の石川県の地震で被害を受けられた皆さんには本当にお見舞いを申し上げますとともに、早期の復興を願っております。私たちとしても、できることがあれば協力をしていきたいというふうに思っています。

今、辻本議員から、3期目の重点目標というようなお話も頂きました。2期8年の宣伝をちゃんとやってないんちゃうとか、そういうお話も頂きましたけど、私やっぱり、自分のやったことを、これをやったんやという

のはあんまり好きではなくて、これはもう市議会、県議会のときも通じて、あんまりそういう発言をしてこなかったというところもあります。

2期目は本当に、私も期待を持って橋本市長に就任をさせてもらったんですけど、もういきなりたくさん抱えていることもありましたし、やはり財政的にはもうとんでもないところまで来ているなというのもありました。

その中で私としても、国とか県の協力を頂きながら、財政健全化5か年計画も立てましたし、そういう中で決して何もやってこなかったのではなくて、国の補正予算を使ったり、いろんな形で、エアコンも無理やと言っていたのを補正予算ができてつけることもできましたし、なかなか厳しい8年間やったなというのは今でも思いますし、それでも今3期目、財政健全化5か年計画によって、随分、財政状況もよくなってきています。

ただ、決してそんなによくなったわけでもありません。というのは、橋本市の今、課題というのが、一番大きいのが人口減少、少子高齢化という問題の中で、これから税収の減であったり、逆に社会保障費はどんどん上がっていく。そういうためにどういうふうな方法で取り組んでいくのか。

そして、もう一つ橋本市の本当の厳しいところは公共施設の老朽化。道路、橋梁にしてもそうなんですけども、毎年多額のお金を投入していくというふうなことも事実でありまして、恐らく水道を入れるとこの10年間ぐらいで300億円ぐらいはというふうなことも必要である。それをどう財源を確保していくかというふうなことだと思っていまして、その中でうまく財源を使いながら、新しい事業も取り組んでいくというふうなことも考えていますし、そして、今、これから絶対にやって

いかなあかんことがデジタル化の推進ということで、今、5月からホームページに電子窓口をつくりました。今年度中には電子申請ができるように、これから進めていくというふうなことを思っています。

これから少しでもデジタル化を促進することによって、市民サービスの向上と、また、組織のスリム化も図っていくということ、これから積極的に進めてまいりたいとも思っていますし、あと庁舎の建て替え問題も、建設してから65年ぐらいたっています。コンクリートの寿命が70年と言われている中で、私、おととしの仕事始め式で、庁舎を建て替える検討をしますというのを発表しましたけども、当初20年ぐらいと思っていたんですけども、15年以内には何とかの形をつくらないと、庁舎を建て替えないと本当に、先日の地震、6弱程度のものが来ても、あそこはひよっとしたら危ないのかなというふうな思いもありますので、そこはこれからしっかりと、内部、今、プロジェクトをつくっています。

今は9月に基金条例を上げて、今、だいたいの計画を今年中につくって、そして、5年たったときに、5年間、もう一度見直しをさせて、やっぱりコンパクトにしていくということを考えていきたいなというふうに思っています。

やっぱり橋本市のこの少子高齢化という課題を、どうしてもこれは前へ進めていくということが絶対に大事なことなので、少子化、子育て支援については、今、ハートブリッジもつくって、専門職もたくさん採用もしていますし、今、相談体制は徐々に整っているのかなという反面、また、これから大事なことは、市民の皆さんといかに協力をして子育て支援をつくり上げていくかということだと思います。

今、ヘスティアにも家庭支援室に入っても

らって、市と協働で事業をやったり、民生委員・児童委員の皆さんや母子推進員の皆さんとも連携して、やはり子育てに対する支援をしっかりと、早期発見、早期対応というのをこれからより一層、そして、学校ともしっかりと、教育委員会とも連携をして、ヤングケアラーの問題であったり、そういうところをどういうふうに取り組んでいくのかというのをしっかりと進めていく必要があるのかなというふうに思っています。

私、今気になっているのが、今の子育て支援策というのは、もう正直言ってばらまきばかりで、これはもう、こんなことしていたら、どんどんどんどんそこにお金ばかり行って、市の財政も厳しくなる反面、どんどんどんどんエスカレートしていく。

やっぱり市と町という、人口の少ないところはお金をばらまいても大丈夫だと思いますし、過疎債というソフト事業で使えるお金もあるので、そういうところはどんどんそんなふうな意味での子育て支援になるのかなというふうな疑問も持っています。

子育てするときで私も経験しましたが、高校、大学に子どもが行くときに、どれだけお金がかかるのかという経験もしているし、もう少し、今度、こども家庭庁ができるみたいなので、その中でどういう議論がされるかというのは楽しみにはしているんですけども、やっぱりばらまきばかりではどんどんエスカレートしてしまうというところもあるのかなということで、やはり橋本市としては、相談体制を充実して、本当に困っている人には何らかの形でお金を出していく、補助金を出していくとかというのは僕は必要やと思いますし、そういうふうな、これから本当に橋本市の子育て支援はいいなと、お金じゃなくて相談体制やいろんな形の事業はやってくれてい

るなというところをしっかりと表現できていたらいいのかなというふうに思っています。

教育については、もうこれは教育長が教育分野のトップでありますし、やはり学力の向上と子どもたちの生きる力をしっかりと身につけて行ってほしい。そして、いろんな体験をしてほしいと思います。楽な体験をするんじゃないで苦しい体験をしてもらって、何とか子どもたちが、どんなに苦しいときでも踏ん張れるように、そして、下を向くんじゃなくて、これは20歳の成人式でもよう言うんですけども、下を向かんと、後ろを向かんと、とにかく何か方法あるはずやでという話をよくするんですけども、そういうふうに前向きに考えられるような取組をしていただけたらなというふうにも思います。教育は学業だけではなくて、やはり生きる力をどう育んでいくかということも大事なかなというふうに思っています。

一方で、学校の老朽化もすさまじいものがありまして、今年、城山小学校を8億円かけて改修しますが、その後、隅田中学校、紀見東中学校とやった後、また30年以上たった学校は40年になるので、また長寿命化ということもやっていく必要もありますので、この長寿命化というのは、ずっと支援をやっていく必要があります。

一方で、小学校の統合ということも、これは避けて通れない事実だと思います。今年も河南地域の学校で、3校合わせても17人か18人ぐらいの入学生しかいてませんでした。じゃ、この学校をこれからどうしていくのか。統合した後、その学校をどう使っていくのかということもこれから考えていく必要もありますし、それを学校を地域に開放していく、地域のために使っていただくということもこれから必要になってくるのかなというふうに思います。

一応、基準づくりはしていきますので、その中で、子どもたちにとって学習の機会を奪わないように、そこはしっかりとしていきたいなというふうに思っています。

まだエアコンだけでも、特別教室とかで、先日会議をしたときに、あと5億円ほどあるという話も出てきていますし、体育館の空調であったり、蛍光灯がどうやら製造がそのうちなくなるみたいなので、役所の中をLED化も、学校もそういうふうなこともしていく、トイレも改修していく、洋式に変えていく。

ハード面でもかなりの費用もかかってきますので、しっかりと、今、文部科学省に1人職員を送っていますけども、その職員と連携しながら補助金の確保に今後も努めていくということになってくると思っています。

これから本当に、今、役所の中でも言っているんですけども、官民連携ということを実際に真剣に市民協働でやることを考えなさいというふうに、今、話をしているところです。

橋本市の宝である子どもたちのために、できることは、財源が確保できて、そして、いろんなことも、学習力のアップ、今、GIGAスクールで1人1台のパソコンも渡していますし、今度、電子黒板も導入して、これからは電子教科書ということも活用しながら、子どもたちの学習力の向上と、これから社会に出てもしっかりとパソコンを使えて、ITで仕事ができるような子どもたちというのも育成できればいいのかなというふうにも思います。

また、一方で貧困という問題で、子ども食堂という問題もあります。今年から、もうクラウドファンディングで集めたお金がなくなりますので、新たに予算措置をして、これから子ども食堂への支援、また、フードドライブであったり市民の皆さんにも協力をしていただいて、食料品の廃棄を少なくして、そし

て、それを子ども食堂で使ってもらう、あるいは、今、配食の弁当もやってもらっていますけど、そういうところに使っていただく。子どもの居場所づくりをしっかりとしていく。

今、紀見小学校と境原小学校で、ぼれぼれが子どもを居場所づくりに協力をしていただいていますし、もう子ども食堂というのを、高齢者の方も一緒に来て過ごしていただけるような、そういうような、子ども食堂という名前もいずれどこかを変えて、そういうふうな、子どもたち、そして高齢者の皆さんが交流していただけるような、そういうものも進めていきたいというふうに考えています。

これから本当にいろんな課題を抱えています。子育て支援については今後もより一層の、私のメインの、これは市議会議員のときからやっているメインの施策でありますので、これはより充実をさせていきたいというふうに思っています。

高齢者の皆さんにも、このコロナ禍の中で外出を控えられてきたということもありますので、今もう既にいきいき健康課には、ふれあいサロンであったりげんきらり～体操であったり、どんどんやっていきなさい、感染対策を十分取ってやりなさいという指示を既に出していますし、いきいきルームも始めさせていますし、これからそういう健康予防、介護予防についてもしっかりとやっていく。

また、75歳以上の後期高齢者と介護保険を連動させるために、今年から保健師と、あと職員1名を入れて、今度、後期高齢者の皆さんとの介護保険との連動をして、少しでも健康寿命を延ばす、介護予防をしていく、そういう取組も今年からスタートさせています。

そして、移動支援、買物支援についても、今、先日も会議をしまして、これから、いきいき健康課と政策企画課がメインとなって、どういう形で高齢者の皆さんの移動支援をし

ていくのかという話、買物支援も含めてですけども、これをやりなさいというふうにしています。

今、車の手配を、リースでやるのか、協力していただける皆さんの自動車で、保険を市のほうで少し応援するのか、そういうような検討もさせています。そういう中でこれから、できるだけ早い時期に一定の移動支援であったり買物支援というのを進めていきたい。

また、第2層の支援協議体もようやく全地区にそろいましたので、これも今、第2層の支援協議体、学文路、恋野のほうでは買物支援の車を走らせて、販売の車を走らせていますし、今、もう一つ別の地域で、第2層と皆さんと相談して、今、車を走らせようとしていまして、第2層の支援協議体の皆さんと一緒に、うちの地域はこういうふうなことをしてほしいということ意見を頂いて、その中で中心にそういう支援を進めていくということ今考えているところです。

これから私たちもできるだけ市民の皆さんの声を聞くために、役所でおるのではなくて、外へ出て行って、いろんな意見を拝聴した上で施策を組み立てていくというふうに考えています。

そして、橋本市も高齢化率がもう34%近くなっていますので、免許を返納された方への支援を今どういうふうにするかというのでも検討しておりまして、どういう形がいいのか、コミュニティバスの見直しもこれから、隅田の幹線が来年から廃止されることになりましたので、子どもたちにはスクールバスを出して走らせたいと思っていますけども、橋本駅から山内、平野地域の皆さんには、どういうふうな走らせ方がいいのか。

これから、バスの台数を増やしていくのか、デマンドにするのか、これから少しいろんな意見を聞いて、少しでも便利なコミュニティ

バス、デマンドタクシーの走らせ方を考えていけたらなというふうに思っています。

本当にたくさんの課題を抱えていますし、これから公共施設の老朽化も非常に厳しい対応もしていく。やっぱり老朽化した建物を使ってもらおうという、特に最近の地震の頻発を見ていましたら、もうこの建物は限界やでというところは廃止というような形を進めていきたいなど。

地域の皆さんは置いておいてくれよという声もあるんですけども、先日、小田の児童館が外壁が落ちまして、隣の企業にコンクリートが落ちてガラスを割ったというような、そういうこともありますので、そういう老朽化した施設をこれからどういう管理をしていくのか。

令和6年度にはまた公共施設の管理計画も立てていくということになります。市民の皆さんが使っているので心苦しいところはあるんですけど、安全安心というところを考えますと、そこはどうしても、また、もう自分自身、嫌われることは何とも思っていないので、やはり人命を守っていくというところでは、そこをどうしていくかということもこれから考えていく必要もあるのかなというふうには思っています。とにかく、やはり、使っていただくよう、より安心安全というところに注意をしていかなあかんのかなというふうにも思っています。

今後、道路にしても、私も選挙のとき各地を回って、議員にもここ見らんほうがええよといっぱい言われましたけど、そういう中で、道路の整備、舗装の改修であるとかというのを、やっぱりこれから進めていかなあかん。今年も今まで4,000万円やった予算を6,000万円に上げましたけど、でも、これは到底、職員だけでは無理なので、今、水道がやっているような方式が取れないかなとか、もうとに

かく修繕で設計監理をほんまにつける必要があるのかなとかという、いろんな入札的な問題もあるんですけども、できるだけ職員は職員でやるところ、逆に民間企業でやってもらうところはやってもらう、そういうやり方もこれからほんまの官民連携で、少しでも安全な道路にしていくようにしていくことは大事かなと。

幹線道路は国の補助金が2分の1あったりして、今、計画的には進めていっているんですけども、その他の道についても非常に老朽化が目立つ。拡幅要望についても、一定の基準を決めて、人口であるとか費用対効果を見て、もう申し訳ないけど、ここはもうやりませんというふうな選択もこれから必要になってくるのかなと。

どうしてもあと10年ないし15年ぐらいで、コンパクトシティというふうな形で山手の皆さんをまちの真ん中のほうに下ろしていくということも、新しいまちづくりとしてこれから考えていく必要が出てきているのかなと。

これは少子高齢化に伴う、やはり山間部の人口減少、高齢化という問題に対して、これからそういう、将来的にどうい対応をしていくのかということをしっかりと計画していく必要があるのかなというふうに思っています。

本当に、公共施設の整備、道路、また橋梁も、今、垂井橋と細川橋は直して、今年から橋谷大橋、これも直しに行きますけども、結構たくさんのお金もかかりますし、技術者がなかなか少ないという問題もあります。

橋本市にあるため池、これはちょっとなかなか改修は難しい。技術者もいてないし、逆に、鋼という池特有の土を探すか作るかしていくという課題もありまして、今は水の管理をして、できるだけ水位を下げてもらっているんですけども、調査した結果、直さなあか

んところについては国・県の補助金を使う、市単独でやる、また、廃止ため池にしていくというふうにして、市民の皆さんの安全安心につながるような、そういう取組も必要になってくると思います。

そういうふうなことをしっかりと、公共施設については10年間の整備計画を立ててあるんですけども、それも常に、終わっても次がまた出てくるので、100億円ぐらいがずっと10年間で要るような状況にもなっていますので、そういう中で、市民の皆さんとも相談をしながら、廃止すべきところは勇気をもって廃止していくよう、給料カットしたら身を切る改革やという政党内でありますが、そうじゃなくて、身を切る改革というのは、自分が嫌われても市民の皆さんの生命・財産を守っていくということが僕は身を切る改革やなど。自分の評価なんてどうでもいいし、そういうことをきちっとやっていくことが必要かなというふうに思っています。

これからまた、昨日も石川県で地震、この頃、日本全国で地震が頻発しています。当市としてもこれから防災・減災計画をしっかりと取り組むということで、今、危機管理監を中心に、全て見直しをしてもらっています。

その中で、まず一番、この3年間かけて防災無線を廃止します。そして、各家庭に戸別受信機を配らせていただく。そして、若い人たちが大阪とかほかの地域に働きに行っている人たちに防災情報を伝えるために、今、帰ってこれませんよとかという、そういうふうなアプリを導入して、若い人たちにも、外で働いていても橋本市の被害状況であったり避難状況を把握できるように進めていきたい。

今、避難所の混雑状況等ができるやつは、ある企業と連携してそれを分かるようにしてあるんですけども、まだ災害が起こっていないので、1回も使っていないので、今後そう

いうようなことも含めて、防災無線というのを改めて見直していく、そういうことをやっていきます。

問題は、でも、この防災無線をなくすことによって、ただ、広報活動ができなくなる。子どもたちの見守りの連絡、今、防災無線で子どもたちが録音してやってもらっているんですけども、その手段がなくなってくると、防災の面ではもう戸別受信機というやり方をしていくんですけども、ただ、今それ以外でも使っていることをどういうふうに市民の皆さんに伝えていくかということも考えていく必要もあるのかなというふうに思っています。

本当に、地震、私たちが経験をしておりませんし、そして、どんな地震が起こるか分からない。そのときにやはりこれから大事になってくるのは、113地区ある自主防災組織をつくっていただいていますので、それをどうやって動かしていくかということが、これから一番大事なことかなと。

そのために第2層の支援協議体等をつくってもらって、地域の人たちのつながりを深くしていく、あるいは、げんきらり～体操とかふれあいサロンで市民同士が仲よくしてもらおう、つながりを持っていただくという狙いもあって、今そこをやっているんですけども、災害になったとき、私たちが果たして、平日だったらみんな市役所にいてるんで大丈夫なんですけど、土日祝日に起こった場合、私たちが何人の職員が集まってこれるか分からないという現状があります。

そういう中でこれから大切なことは、今までつくってもらった自主防災会を、いかにして地域の皆さんの命と安全を守るために、どう運営していただくか。そして、自分たちの住んでいる地域にはどういう災害が起き、どういう問題があるんやということをよく議論

していただいた上で、私たちにも伝えていただいて、その取組を進めていくということも大事だと思います。

もう自主防災会つくって10年、最初、初期につくっていただいた団体がもう10年になりますので、また10年たった今、新しい備品を買うというときには補助金を出すように変えています。それをうまく活用していただくということが重要になってくると思います。やはり地域での昔のような人と人とのつながりというのがこれから大事になってくると思いますし、そういう取組をしていただけたらなというふうに思っています。

今回、SDGsの交付金を各区にお渡しをしています。これは、地域でこういうことをやりたい、こういうまちづくりをしたいというソフト面のところを支援をしていくという形で、今回つくらせてもらいました。これは誰一人取り残さない、橋本市が継続的に発展していけるよというSDGsの基本理念に基づいて補助金をつくって、本当に地域のために使っていただけたらなと。

それが別に健康寿命とか介護予防をする取組であってもいいと思いますし、あるいは、移動支援として使っていただいてもいいと思いますし、各自治会・区がしっかりとそういうふうな趣旨を酌み取っていただいて使っていただけて、そして、もっともっといろんな意見を頂ければ、この交付金をさらに増やしていくということも今考えています。

今年1年目なので、やはり、持続可能な橋本市をつくるためには、どうしても市民の皆さんの力が必要になってきます。職員も5年間の財政健全化でかなり減らしました。今ちょっと、財政も落ち着いてきたので、採用人数も増やしているんですけども、ただ、役所の人間だけでは決してそういうまちづくりというのは難しくなっていますし、例

えば、三石台と城山台で、じゃ、高齢化率が10%台のところともう50%近い地域と同じ施策ができるかということ、それはもうできない。

やっぱり三石台は三石台の考え方があるでしょうし、城山台は高齢者中心のことになってくると思うので、その辺をうまく、地域の中で皆さんで議論をしていただいて、うちの地域はこういうまちづくりをしたいというふうなことを考えていただければいいのかなと。それがまた、災害が起きたときに地域のつながりとなって、お互いに助け合いができる、そういう環境づくりにつながっていくのではないかなというふうに思っています。

今、ばらばらに言いましたけど、全て市民の皆さんと一緒にまちづくりをしていく、人間関係をしっかりとつくっていくために、今まで計画的に進めてきたことを実行しているところもあります。

先ほどから申していますように、市民の皆さんとの協働で一緒にまちづくりをする。はぐくむ条例もこれからもっともっと地域に入って説明をしていきたいと思っていますし、これから本当に、新しい時代の新しいまちづくりをしていけたらなというふうに思っています。

なかなか、まだまだ行政がするもんやというご意見があるのも十分承知していますが、これから10年先、20年先、地域のマンパワーがなくなっていく。今、区長や自治会長にお世話になって市の業務もやっていただいていますけども、それが本当に10年先、20年先に、区・自治会制度が守っていけるのか。多分、恐らく無理だと思います。

その中で、私たちとしてもどういうことを市民の皆さんにやっていただいて、行政はハード的なことであるとか新しいまちづくりの提案であるとか、そういうきちっと役割分担もしていく。そして、民間の力も借りる。

今、民間企業と協定を結んだりして、高齢者の、こんなことをしたらええというような提案も頂いたり、危機管理のほうでは防災に対する提案を頂いて、協定を結んで、災害が起きたときにできるだけ協力していただけるような体制づくりというのを進めているところです。

今、役所の中でも言っているのは、経済推進部を例に挙げますと、今、シティセールス推進課、農林振興課、ブランド推進室、企業誘致室というのがあるんですけども、先日も観光の会議にも出てきたんですけども、観光についても、これはシティセールスも農業もブランド推進室も一緒じゃないかと。

この今ある地域資源をいかに活用していくかということは、うちはこしかやらんではなくて、いろんなところを巻き込んで、そして、自分の農産物をもっと高く売れるようにするとか、ふるさと納税を増やしていくとか、そういう取組を経済推進部全体でやりなさいと。

今、企業誘致も41社が操業していただいていますけど、その中でもっと地元企業とのマッチングが進めていかれへんのかということも話をしておりますして、何らかの形で地元の企業の皆さんの支援につなげていくということも必要なというふうに思いますし、ふるさと納税も今年は5億円をめざすということで、いろんな取組をしています。

一般質問もあつたかなと思いますけど、そういうふうに、でも、僕の基本的な考え方は、生産者や地元の企業がふるさと納税によってもうけてもらうという基本を忘れてはいけないということは常々言っています。今、ほかの地域と協定を結んだら、半分は橋本市に入るけど、半分は協定を結んだところに入る。これって本当にどれだけのメリットがあるのか。

地元の事業者に対してどれだけのメリットがあるのかということをお忘れたらあかんということで、ただ金額が増えるということだけが全てではないので、そういうことも含めて、これから、先ほども言いました、いきいき健康課と政策企画課での高齢者の皆さんの移動支援であるとか買物支援を、横連携で、そして、第2層の支援協議体の皆さんに協力してもらって、そういうことをやっていくということ、これからしっかりと前へ進めていきたいと思っています。

課題だらけの橋本市ですけども、それを一つひとつ丁寧に解決をしながら、ただ、私のマニフェストの「元気なまちづくりロードマップ」も、職員に言っているのは、効果がないうんやったらやらんでええよと。さらに、こういうことが、こんなことをしたほうがいいんじゃないかというやつはどんどん提案してくれと言っています。

やっぱり、私もトップダウンでやる、そういう財政健全化が終わったので、もうそういう時期は終わった。あのときは自分が1人、陳情を受けても私が全て断っていましたけど、もうこれからは本当に、各部長がこれからおまえ、やりたいことをやっていきなさいと。

この間、実は部長と、今年の目標を提出せよと出して、3人ほど落第生がいましたけど、でも、それでも改めてまたやって、おまえは部長になってどういうことをするんやという、そういう話をして、部長としてどういうリーダーシップを発揮して、新しいまちづくりを進めていくということ、できるだけボトムアップでしていくというこの3期目かなというふうに思っています。

今まで長々としゃべってまいりましたが、やはり財政健全化という基本は崩さずに、中にはやはり事業の精査もして行って、これはやめておこうということは必ず出てきます。

もうお金のない8年間は本当に苦しいだけでしたから、やはり常に財源にゆとりを持って、そして、今持っている借金を減らしていく。

そういう取組を進めていきながら、この3期目に取り組んでいけたらなというふうに思っていますので、議員各位につきましても、相変わらずちょっとねということがあるかもしれないかもしれませんが、それは決して、いやいや言っている、やりたい気持ちはあるけどという気持ちもあることを含んでいただいて、ただ、やるべきことだけはしっかりとやっています。

そのためには、決めたことには財源を確保していくということが非常に重要な問題になってきますので、これからも市の借金も減らしながら、財政健全化も維持しながら、デジタル化も進めながら、組織をスリム化する。

今度、高野口に、公民館でテレビ電話方式の申請をできるように、この補正予算にも上げてあるんですけども、将来、公民館もそういうことができるような、福祉職員はつけられないかなと思うんですけども、そういう、公民館でも電子申請、電子窓口ができるような、そういうことでも高齢者の皆さんに、公民館に来ていただいたらそういうことができるよとか、そういうことも、スマホ教室もしながら進めてまいりたいと思いますので、ぜひ議員各位のご協力をお願い申し上げまして、長々しゃべりましたけども、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（小林 弘君）6番 辻本君、再質問ありますか。

6番 辻本君。

○6番（辻本 勉君）市長ありがとうございました。長々としゃべっていただきまして。私の意図するのは、もう少し簡潔に市長の熱い思いを聞きたかったんですけども、具体的なところまで踏み込んでいただいて、かなり

詳しく説明を頂きましてありがとうございます。

個別の案件につきましては、今後、議会のほうで詰めていきたいなど、一般質問等を出して、詰めていきたいと思っていますので、これからは3期目へぜひ頑張っていただきたいなど。今言っていたことが実現できるように、ぜひ頑張っていただきたいと思っていますので、これで終わります。

○議長（小林 弘君）6番 辻本君の一般質問は終わりました。

この際、10時45分まで休憩いたします。

（午前10時31分 休憩）

---